NEW ヒライ信

VOL.2
NO. 91
（第191号）

楽習塾（がくしゅう）　塾長　平井　幸雄（たかお）
hiraisin@par.odn.ne.jp

漢字の変遷　亀甲→金文→篆書→楷書→草書　　漢字の成立ち（象形、指事、会意、形声）

漢字がどのように誕生して、どのように変遷して、現在の姿になっているだろうか。そして、これからどのように変化していくだろうか？

約３５００年ぐらい前に、亀の甲羅や牛の骨に書かれた「甲骨文字」が誕生し→「金文」→「篆書（てんしょ）」→「楷書」と書体が変化した。そして、今はパソコンから色々な書体が打ち出せる。　一方、漢字には、ものの形を象った「象形文字」、ある事実を指し示す「指事文字」、いくつかの象形で作られた字を組合せた「会意文字」、その字の発音を表す「形声文字」などがある。漢字は絵文字から始まったが、漢字を組合せて、漢字のもとになった絵に戻してみた。

魚偏の漢字で魚の形を象ってみました

甲骨文字　金文　篆書　創作絵文字

魚魛魞魡魰魯魴魷魨魮魴魷魨魯魴魷魨魮魴魷魨魯魴魷魨魮魴魷魨

甲骨文字　金文　篆書

馬遍の漢字でうまがうまれました

馬馭馮犀馱馳馳駒駅駆駅駒駅駅駅